

【草花の部屋】

ハナショウブ（アヤメ科アヤメ属 Iris ensata var. ensata）

和名：ハナショウブ（花菖蒲） **別名**：菖蒲、アイリス

英名：Japanese water iris、Woodland iris

キジカクシ目 多年草 **原産地**：日本、韓国、シベリア

花言葉：うれしい知らせ、あなたを信じる、心意気、優しい心、優雅、信頼



花の色：紫、白、桃、青、黄

←↘ 写真-1、2 ハナショウブ
撮影日：2013年05月05日
撮影場所：唐招提寺(奈良市)にて
撮影者：M さん



←↑ 写真-3、4 ハナショウブ
撮影日：2013年05月05日
撮影場所：唐招提寺(奈良市)にて
撮影者：M さん



← 写真-5 ハナショウブ

撮影日：2016年05月21日

撮影場所：京都府立植物園

撮影者：M さん



←↑ 写真-6、7 ハナショウブ

撮影日：2016年06月01日

撮影場所：ラ・カゼルタ

(フランス)にて

撮影者：M さん



写真-1～4は、奈良市の唐招提寺境内で見かけた、青系の標準的な花色で、清楚に咲いていました。写真5は、京都府立植物園で見かけた紫系の花色。写真-6、7は、モンサンミッシェル対岸のラ・カゼルタの街で見かけました。白系の花色で、綺麗な花でした。

ハナショウブは6月ごろに花を咲かせ、ノハナショウブ(学名 *I. ensata* var. *spontanea*)の園芸種で、絞りや覆輪などとの組み合わせを含めると5,000種類以上あるといわれています。

優美な花形としっとりとした風情が魅力で、花色の変化にも富んでいて、色彩の魔術師とも呼ばれるそうです。

花形は、三英咲き(さんえいざき)と呼ばれる3枚の弁が大きく目立つものと、6枚

の弁が広がる六英咲き(ろくえいざき)、そして八重咲きなどがあります。

品種の育成地によって、江戸系、伊勢系、肥後系の3タイプに大別され、これらの交配種もあり、さらに、種間交配によって育成された黄花品種や、アメリカなど海外で育成された品種もあるそうです。

なお、端午の節句のショウブ湯に利用されるのは、サトイモ科のショウブ(Acorus属)で、ハナショウブとは別の植物です。「いずれがアヤメかカキツバタ」という慣用句がありますが、どれも素晴らしく優劣は付け難いという意味ですが、見分けがつきにくいという意味にも用いられます。

<ちょっと一言>

*アヤメ、カキツバタ、ハナショウブの見分け方

アヤメ：外側の花弁に網目模様がある

乾いた所に育つ

カキツバタ：外側の花弁に網目模様なし

外側の花弁に白い斑紋がある

水中や湿った所に育つ

ハナショウブ：外側の花弁に網目模様なし

外側の花弁に黄色い斑紋がある

湿った所に育つ

*アヤメ類の総称としてハナショウブをアヤメと呼ぶことも多く、間違いにはあたらないそうです。